

8. 河道特性

重信川は愛媛県東温市東三方ヶ森に発し、途中表川、拝志川、砥部川、内川、石手川などを合わせて、道後平野を貫流して、伊予灘に注ぐ幹川流路延長 36km、流域面積 445km²の一級河川である。直轄区間の河床勾配は 1/110~1/940 と急勾配であり、典型的な急流扇状地河川の様相を呈している。

(1) 砥部川合流点上流(9.2k~17.2k)

砥部川合流点上流の河床勾配は 1/150~1/110 程度である。川幅は、9.2k~11.0k で 220m~320m、11.0k~15.0k で広くなり 360m~470m、15.0k~17.2k で狭くなり 170m~310m 程度である。河床材料の代表粒径は約 35mm である。

河道の平面形状はほぼ直線的であり、9.2k~15.0k では川幅が大きく複列砂州となり、みお筋が一定していない。一方 15.0k 上流では川幅が狭く、みお筋が河道中央部に固定されている。横断形状は 9.2k~13.4k の区間は複断面形状であり、高水敷はゴルフ場、テニスコート、公園等として利用されている。13.4k 上流区間は単断面に近い形状となっている。



図 8.1.1 砥部川合流点上流

(2) 石手川合流点～砥部川合流点 (4.0k～9.2k)

石手川合流点～砥部川合流点の河床勾配は1/310～1/210程度である。川幅は、190m～400m程度であり、河床材料の代表粒径は約20mmである。

河道の平面形状はほぼ直線的であり、6.0k付近で右岸側へ湾曲している。単列砂州となり概ねみお筋が固定している。4.0k～4.8k、5.8k～6.0k、8.6k～9.0kで川幅が狭く、横断形状は概ね複断面形状で、高水敷はテニスコート、公園、ソフトボール広場、グラウンド等に利用されている。



図 8.1.2 石手川合流点～砥部川合流点

(3) 河口～石手川合流点 (0.0k～4.0k)

河口～石手川合流点の河床勾配は、1/540 程度である。川幅は、200m～480m 程度であり、河床材料の代表粒径は約 20mm である。

河道の平面形状はほぼ直線的である。単列砂州が発生し、みお筋は概ね固定されている。また、1.0k～1.2k、3.0k～3.4k で川幅が狭くなっている。横断形状は概ね複断面形状で、高水敷は畑地、果樹園等として利用されている。

河口付近で形成されている干潟は、環境省のシギ・チドリ類の重要渡来地域及び環境省の重要湿地 500 に指定されている。



図 8.1.3 河口～石手川合流点

(4) 石手川(重信川合流点～3.4k)

石手川の河床勾配は、1/320 程度である。川幅は、80m～140m 程度であり、河床材料の代表粒径は約 20mm である。河道の平面形状はほぼ直線的であり、砂州の発生は特に見られない。また、JR 石手川橋梁地点では、橋台が河道内にせり出し、川幅が極端に狭くなっている。横断形状は複断面形状で、高水敷は公園、テニスコートとして利用されている。



図 8.1.4 石手川